

# 平成30年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技大会展望

文： 中島 洋己

((一社)静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭)

平成30年度第32回東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選が平成31年1月26日に草薙このはなアリーナ他で開幕する。27日にブロック決勝と決勝リーグ初戦、5位決定トーナメント1回戦が同じく草薙で行われ、2月2日に静岡市北部体育館で決勝リーグ第2戦と5位決定戦が行われる。翌3日には決勝リーグ最終戦を静岡市立高校で行い、上位3チームが2月9日、10日に地元・草薙で開催される東海高校新人大会への出場権を獲得する。平成最後の県新人大会、制するのはどのチームなのか、また28年ぶりに静岡市で開催される東海新人に駒を進めるのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。今大会から年末のウィンターカップでともに全国で2勝し、ベスト16の成績を残した男子・飛龍と女子・浜松開誠館が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。

なお大会最終日の2月3日正午からは平成30年度(一社)静岡県バスケットボール協会U-18カテゴリー優秀選手男女23名の表彰式も合わせて行われる。

## 【男子】

大本命はやはりインハイで敗れた北陸にウィンターで見事雪辱、優勝した福岡第一には敗れたものの確かな足跡を残した飛龍であろう。関屋、杉山という絶対的エースは抜けたが、主力も多く残っており、飛龍の代名詞とも言える「リバウンドからのブレイク」を信条としたバスケットは健在。今大会でも優勝候補筆頭である。新チームのキャプテンとしてチームを引っ張るのはポイントガード・高須崇介。ゲームコントロールがうまく、試合展開に応じて攻守のパターンを変えていける器用な選手である。副キャプテンの色山輝は得意のロングシュートでチームの窮地を数多く救ってきた。二人ともチーム内で「しかるべきポジション」を与えられ、それが相乗効果となってチームに貢献していだろう。ウィンター3試合で33得点を記録した保坂晃毅は1年生ながら物怖じせず積極的にゴールに向かう姿勢が魅力、わずかなスペースを見つけてドライブシュートやレイアップを狙う新チームの得点源である。U-16日本代表候補にも選ばれエントリーキャンプにも参加、チーム信条通りのリバウンドからの速攻にさらなる磨きがかかった。またオフボールポジションにいる時にはパスをもらいに走り続け、シュートチャンスを逃さない姿勢は賞賛に値する。まだまだ伸びしろが多い選手だけにさらなる精進を続けて全国を代表するような選手になってもらいたい。同じく1年生の古大内雄梨は果敢に放たれる3Pとその確実性が特長、先月U-18日本代表候補にも選ばれた。決まりだしたら止まらない3Pは今まで飛龍に代々在籍したシューターたちと遜色なく、「新・アウトサイドの魔術師」の異名を誇る。対戦チームも彼の3Pを封じるのに苦慮するであろう。インサイドには試合経験豊富な中国人留学生リュウ・ヤハオが待ち構える。持ち味の力強いリバウンド術だけでなく、器用なドライブやアウトサイドシュートも巧みにこなすようになった。マークマンがドライブに対応してシュートコースを先回りするようなディフェンスをしてくる時にはストップしてジャンプシュートを放つなど状況に応じて戦術を考えていくバスケットがさらに出来るようになってきた。この選手がオールラウンドな攻

撃を遺憾なく発揮するようになると飛龍はさらなる百万馬力の強さを得たことになるだろう。その他、成長著しいスコアラー・**松井翔**、強靱なフィジカルを誇り最近では課題であったスピーディーな動きも見せるようになった**三橋結**など先輩たちの「遺伝子」を受け継ぐ戦力を多く抱える。現在県内高校大会6連覇中、そしてこの大会3連覇を狙う王者に油断も死角もない。

大本命の飛龍を追いかけるのはウィンター県予選準優勝・西部新人覇者の浜松開誠館とウィンター県予選3位・中部新人覇者の藤枝明誠。

**浜松開誠館**は決勝でライバル・浜松学院を振り切り、3年連続で西部新人を制した。絶対的エースの神田、田中、そしてウィンター県予選準決勝で大活躍して逆転の立役者となった佐原は抜けたが、その穴を厚い選手層でガバーし40分間緩めずに脚を使った堅いディフェンスが今年も健在で、さらに中、外とバランス良く得点ができ、トップレベルの実力を維持し続けている。攻撃の柱は福井国体県選抜メンバーの**今井田大輝**。高確率の3Pが持ち味で、常に冷静沈着なプレーは高校生とは思えない逸材である。ウィンター県予選・決勝では中盤一時負傷退場したが、痛みに耐えながらもコートに戻り、第3Q終了間際に3Pを決め飛龍に食い下がる姿勢は勝負を簡単に諦めない怒涛の執念を感じさせ、連日の激戦で疲労困憊するチームの士気を鼓舞した。最高学年になった今、人一倍責任感を感じながらチームをまとめ上げていってくれるだろう。チーム最高身長189cm**田中駿**は文字通り高さを生かしたプレーに境地を見出している。リバウンドや当たり負けをしないフィジカルを持ち、ウィンター県予選準決勝では神田の代わりにスタメン出場、エース不在の時間帯を十分に補う活躍をした**飯島友汰**や1年生ながらウィンター県予選全試合に出場し、持ち前のオフェンス力で勝利に貢献した**川嶋耕平**など、県上位や東海での厳しい戦いから得たものを生かして毎年チームの底上げがなされている。昨年一年間はあと一步のところまで優勝と全国出場を逃してしまった。まずはこの大会で優勝して初の県大会制覇、そして3年連続の東海新人出場も果たしてインハイにつなげ、夏に初の全国出場を果たしたい。

**藤枝明誠**はウィンター県予選準決勝で浜松開誠館に悪夢のような逆転負けを喫し全国を逃した。指導者・選手共に思い出したくない試合であろうが、その敗戦を生かして今年も中部新人を制し、仕切りなおして今大会に臨む。やはり中心となるのはマリ人留学生たちであろう。**セコウ・ドゥクレ**は新チームの柱であり、ゴール下の防波堤として攻守に活躍する。中部新人では出場機会がなかったが、インサイドプレーにも幅が出てきて今まで以上に力強さも出てきた。県内最高身長207cmを誇り、その高さは驚異のレベルに達しているため、そこにうまさが増えれば鬼に金棒の感がある。**カミソコ・オマール**もセコウ同様200cmの長身を生かしての空中戦が持ち味。さらに高さだけでなく巧みなスクリーンを仕掛けて味方のシュートチャンスを創り出すなどオフボール時の動きにも目を見張るものがある。**オマール・ディディアン・チュヌ**はウィンター県予選で4、5回戦と中部新人決勝に出場、得意のピックアンドロールだけでなくハイアンドローポストプレイを見せて好機を作り出すなど、多彩なオフェンスパターンを器用にこなす姿が見られた。留学生のオンザコートワンルールの関係で出場機会も限られているが、コートに立てば全力でチームに貢献するはずである。インサイドにはU-18日本代表候補の194cm**川越大輔**もいる。まさに高さにおいてはもちろん県内トップ、他チ

ームの脅威の的と言える。しかしながら各チームも次第にその高さを研究し、ダブルチームやキックアウト、フェイスガードやフルフロントでの守りなど様々な対応策を練り始めてきた。そのためにもアウトサイドプレイヤーのさらなる活躍にも期待したい。福井国体にも出場した**菊池広人**や鋭いドライブで切れ込んで留学生への合わせのパスを出し得点につなげるテクニシャン、ディフェンスではボールマンに対し必要以上に厳しいプレッシャーをかけコフィンに追い詰め相手の攻め手を奪う**岩下恵蓮**、3Pシューター**浜本健**、中盤の**中谷陸人**、**丹藤和輝**、**富永優也**、**押金紘輔**など能力や経験値の高い選手も揃っている。ウィンター県予選の雪辱を胸に、5年ぶりの優勝を狙う。

上記3強を追うのが東部覇者の加藤学園、ウィンター県予選3位・西部新人準優勝の浜松学院、そして同じくウィンター県予選ベスト8・中部新人準優勝の静岡学園であろう。

**加藤学園**は飛龍不在、混戦の東部新人で三島北、沼津中央というウィンター県予選ベスト8のチームを次々破り、初の東部新人制覇を達成した。高い身体能力を持つ選手を多く抱え、ジャンプ力やブレイクに走るスピードなども県内トップクラスを誇り、県新人の台風の目となる存在になるであろう。チームの屋台骨は3P、ミドル、ドライブなど何でもこなすオールラウンダーの**服部龍雅**。調子に乗ると手が付けられないほどの爆発力を誇り、類まれなる得点力でチームを東部の頂点まで導いた。**鈴木真斗**は多彩なシュートバリエーションを持ち、飛び込みのリバウンド、ドライブ、アウトサイドシュートとどれを取っても一級品のテクニックをもっている。どこからでも得点につなげられる戦力を持っているので、個人個人の能力が有機的に機能していけばベスト4はもちろん、準優勝した平成15年度以来、15年ぶり3度目の東海新人出場も現実味を帯びてくるであろう。そのためにもブロック決勝で予想される静岡学園との熾烈な戦いを乗り切ってまずは決勝リーグ進出を成し遂げたい。

**浜松学院**は西部新人決勝で浜松開誠館に惜しくも敗れ西部2位での出場となり、雪辱を期する大会となる。昨年は絶対的なエースが不在で苦しい戦いが続いたが、葉山、新村など3年生がよく頑張り、3大会すべてでベスト4に入った。その中でも1年生3人がスタメン出場を続け、新しい芽も出てきたのは明るい材料である。伝統の堅いディフェンスからの速攻が持ち味で、まずは去年逃した東海新人出場を目指したい。インサイドの要・**中川健人**はウィンター県予選・静岡学園戦で厳しい闘いの中、相手のビッグマンを完全に封じチームの勝利をもたらした。ゴール下のプレーには自信を持ち、ペイントエリアで相手にパスを通させない位置取りを徹底して行えるようになった。課題であるスタミナ面も徐々に克服、将来が楽しみな選手である。新・司令塔の**後藤陸人**や**前田晃希**はともにドライブからの得点を生命線とし、チームの得点源である。レベルの高い試合の中でキャリアを積んだ今、さらなる成長を今大会で見せてくれるであろう。

中部新人準優勝の**静岡学園**は昨年のウィンター県予選準々決勝で浜松学院相手に終盤までリードを保ちながら最後の最後、土壇場で逆転され県武道館のメインコートにたどり着けなかった。どの大会でも確実に県ベスト8まで勝ち進むがなかなかその先の大きな壁を打ち破れずにいる。今大会では何としてでも決勝リーグへ駒を進め、まずは東海も制した平成11年度以来19年ぶりの東海新人出場を決めたい。もちろんその命運を握るのは「静岡県の至宝」・205cm**市川真人**。アンダー

カテゴリーの日本代表合宿や遠征で培った色々なテクニックを試合でも遺憾なく披露するようになったが、やはり最大の魅力は日本出身選手で全国一の身長を生かした高さでのプレー、中部新人ではリバウンドやポストプレーに特化したバスケットに専念して得点をさらに量産、持ち味を十分に発揮した。私たちに夢と希望を与えてくれる未完の利器であることは間違いないので今大会でのさらなる飛躍を期待したい。その他福井国体にも出場した**永井涼也**や国体予備登録選手として遠征にも帯同、新主将にも任命され、中部新人・藤枝明誠戦では21点を記録、黒子に徹しながらパスを裁いて得点につなげていくことが出来るようになった**鍋田隆真**、中部新人決勝終盤で3P2本を決めて大器晩成した感のある191cm**柴田祐希**、焼津市選抜としてモンゴル遠征にも参加した**杉山大起**、**増田尋斗**など多彩な戦力を擁するだけに東海新人出場も十分射程距離県内に捉えている。ブロック決勝で予想される東部覇者・加藤学園との戦いは今大会屈指の好カードである。

その他、各地区の上位に入った**沼津中央**、**三島北**、**清水東**、**焼津中央**、**浜松工業**、**浜松湖東**なども虎視眈々と東海新人出場を狙っている。

上記以外の注目選手として**望月孝太郎**、**末永昂士**(三島北)、**福本海成**、**山品なさにえる**(伊豆中央)、**小林優里**、**小林亮介**、**谷口海輝**(沼津中央)、**木元杏児**(富士宮東)、**田形一真**、**松田岳歩**(清水東)、**伊東宏人**(静岡)、**小坂成**(静岡東)、**望月陽大**(静岡商業)、**佐野大河**(焼津中央)、**篠島奏杜**(島田工業)、**大滝龍二**、**黒田敏矢**、**河村颯哉**、**山下晃汰**(浜松工業)、**花田竜輔**、**玉木俊介**、**杉本晋作**(浜松西)、**高橋卓巳**、**石田翔大**(浜松湖東)、**小畑樹**(浜松商業)、**平本大河**(浜松湖北)、**小笠吏規斗**(浜松聖星)などウインター県予選でも活躍した一級品の選手が挙げられる。今大会ではその後の成長を見られるのも楽しみである。

最後に今大会男女通じて唯一の初出場となるチームを紹介したい。前身の富士宮農業時代も含めて初の県新人出場を決めた**富岳館**。昨年度から県大会を狙える実力はあったが、その力を十分に発揮しきれずに涙を吞んできた。今年度は工業高校大会3位、東部選手権でも上位に進み、今回東部新人7位で堂々の県大会初出場を果たし、県大会初勝利も狙える位置にまでたどり着いた。出場することにだけ満足せず、貪欲に勝利を狙って県総体にもつながる戦いをして欲しい。

## 【女子】

こちらも現在県内高校大会8連覇、56連勝中、さらには他カテゴリーを含めた全日本選手権県予選も連覇中、社会人・大学生をも寄せ付けない無敵の強さを誇る**浜松開誠館**が頭一つも二つも抜けている感がある。

ウインターでは一関学院に快勝、続く開志国際にも留学生の高さを封じ込み競り勝った。インハイ王者の桜花学園には6点差で惜敗したが、その強さがすでに全国レベルであることを多くの人に知らしめた。鈴木、石牧というアンダーカテゴリー日本代表の2人が抜けたが、全国を経験したプレーヤーを多く擁するその戦力は他の追随を許さない。新キャプテンに就任したエース・**松岡木乃美**は一年次から主力として活躍する大黒柱である。主にインサイドを任されて、華麗なポストプレー、ゴ

ール下に鋭く切れ込むドライブ、そして体を張って支配したリバウンドから仕掛けられるブレイクなど多彩な攻撃の引き出しを持っている。ウィンターでも一関学院戦21得点、開志国際戦14リバウンド19得点など3試合でチーム最多の64得点を記録。ハイレベルな全国の強豪相手にこれだけの得点を記録する攻撃力は他チームの脅威の的となるであろう。右膝の大怪我から昨夏に復帰し、ウィンターでも全試合に出場した**大西莉央**も体を張ったプレーでチームを支える。一年次からスタメンとして出場を続け、県選抜にも選出された類まれなポテンシャル、そしてキャリアを持つ大器だけに新チームの要となり活躍をしてくれるであろう。一年生に目を移すと**山本涼菜**が頭角を現してきた。チーム最高身長170cm、ウィンター・開志国際戦では180cmのセネガル人留学生にマッチアップ、素早くピックアップし相手にボールを持たせないよう徹底的にマークし得点源を封じ込めた。夏過ぎから磨きがかかってきた3Pも3本決め、チームタイの23得点を挙げる大車輪の活躍、勝利に貢献した。要所で確実に決める勝負強さも持ち合わせており、今後チームの柱となっていく注目選手である。ウィンター・一関学院戦で思い切りのよい3Pを3本決め15得点を記録した**黒川菜津菜**も忘れてはならない。初のウィンターで途中出場、緊張する間もなく持ち味の3Pを放ちそれを決める勝負度胸は並大抵のものではない。今後さらに出場機会が増えていくであろう。その他、スピードある1on1や鋭いドライブが魅力の**樋口沙彩**、ジャンプシュートを得意とする**奈須梓咲**、天才的なアシストパスを繰り出す**塩澤小夏**、ウィンター初得点も記録した**マッカラム杏菜**、ドライブに活路を見出す**中田絵美**など今年も厚い戦力を誇る。チーム全体の特徴でもある、粘り強いディフェンスからの速攻を武器に今年も連勝街道を突っ走り、全国屈指の強豪が集う東海新人へと戦いの場を移していくであろう。

不動の王者・浜松開誠館を追いかけるのは新人大会各地区の覇者・3校であろう。

東部覇者の**市立沼津**は3年間チームを引っ張った杉浦と遠藤が引退し戦力的には苦しい中、東部新人決勝では加藤学園相手に思わぬ苦戦を強いられたが、新たにフレッシュな戦力が着実に伸びてきており、今大会他地区の上位とどのような戦いを展開していくか楽しみなチームである。主将の**進藤いづみ**はミドルシュートを得意とし、ディフェンスにも気を配り、試合中も常に声を出しモチベーションを高めるチームの精神的支柱となっている。**齊藤汐海**と**西山沙希**はともにウィンター県予選準々決勝でスタメン出場、一つ一つのプレーに将来性を予感させた。**滝口祐里**は159cmの小柄ながら力強く放たれる3Pの正確さが強み。インサイドを守るのは**萱沼あいり**。167cmと決して大柄ではないが責任あるポジションを任されてリバウンドを人一倍頑張るタイプの選手である。まずは目標の2年連続の東海新人出場を果たすためにはブロック決勝で予想される駿河総合との戦いが大きな修羅場となるであろう。

中部覇者の**常葉大常葉**は3年前のこの大会で優勝を逃してから県内大会の優勝から遠ざかっており、賜杯奪還を目指し背水の陣でこの大会に臨む。主力の山地、北村は抜けたが、昨年のインハイを経験した選手も多く残っており、今年の戦いが注目されるチームである。得点源は県選抜選手でもある**山口郁実**。リバウンドへの初動対応が早く、ブレイクへの起点となるプレーヤーでミドルシュートの成功率も高い。ウィンター県予選・駿河総合戦でもチーム最多の22得点、新チームと

なった中部新人決勝でも41得点、今後もスコアラーとして大車輪の活躍をするであろう。司令塔の**林美弥子**は攻守ともに落ち着いて確実なプレーが出来る好選手である。得意とする3Pも冴え、チームの窮地を救う場面も多々見受けられた。その他プレー中は常に走り続け、レイアップや3Pなどを思い切りよく繰り出す**池田桃子**や、ウインター県予選準決勝でスタメン出場を果たし、鋭いドライブを得意とする**山本光夏**、中部新人決勝ではファウルトラブルに苦しんだが、積極的なプレスディフェンスを仕掛ける**本間海麗**など十分に戦力は整っている。まずは昨年惜しくも得失点差で逃した東海新人出場を確実なものとし、その先の優勝も目指す。

激戦の西部新人を制した2年連続で制した**浜松学院**は3年前のこの大会の覇者、その時は浜松開誠館を破って初優勝を飾り、現王者・浜松開誠館が最後に負けた県内チームでもあるが、それ以降ベスト4の壁を打ち破れずにいる。今大会はまずその壁を突破し、3年ぶりの優勝、東海新人出場を目指したい。中心となるのはインサイドに待ち構える県内最高身長・177cm**早崎琳里香**と173cm足立玲那。早崎は優れたリバウンド力とジャンプ力を持ち、オフェンス・ディフェンス両方のリバウンドを高確率で支配する。足立はウインター県予選準々決勝、一年生で唯一出場しかもスタメンで登場し得点も記録した。170cm**関百花**も控えており、インサイドは県内トップクラスといえる。アウトサイドにはシューターの**山田涼乃**、**白井凜**、中盤には身を挺した果敢なディフェンスが目を引き**杉山琳里香**を擁しており、波に乗れば一気に東海新人出場の可能性は十分にある。チームが掲げる速いトランジションで走って守るバスケのもと、2年ぶりの優勝を目指すためには順調に勝ち進むと中部2位・島田との対戦が予想されるブロック決勝での勝利が絶対条件となる。

他にも激戦区中部で準優勝した島田とウインター県予選準優勝・中部新人3位の駿河総合にも注目したい。

**島田**は新チームを昨年5月から始動させ、11月のウインター県予選では見事初の県ベスト8進出を果たした。中部新人でも準決勝で駿河総合に2点差で勝利、決勝は常葉大常葉に惜敗したが創部以来最高順位の中部2位で県新人出場、ついに東海新人が狙える位置までたどり着いた。サイズ的には苦しいがその分持ち前の機動力を生かしたバスケで今大会でも旋風を吹かせるか大いに楽しみである。エースで司令塔・**杉本ももか**は中部新人決勝・常葉大常葉戦でも3P5本を含む20得点、強豪相手に爆発的な得点力を見せた。スピードがあり、1on1の合わせも絶妙で、ディフェンスでは相手に持たれる前のオフボール時の対応や持たれたあとのワンアームでのチェックも怠らざスキのない選手である。インサイドの166cm・**丸目陽**はシュートエリアが広く、3Pやドライブ、シールが急激に上達し、上位進出の原動力となった。下級生に目を移すと**渡邊彩乃**はボールミートからの一歩目が速く、ヘルプディフェンスが来た時に瞬時にパスコースを探し、空いたスペースに仲間を呼び寄せフリーでシュートを打たせるチャンスメーカーである。**鈴木美沙**は真骨頂の厳しいディフェンスで積極的に前からプレッシャーをかけ相手の攻撃を封じるプレーが光る。東海新人は31年の歴史の中で、現在静岡県女子は静岡市、浜松市、沼津市の高校しか出場したことがない。藤枝順心(藤枝市)も5年前準決勝までたどり着いたが出場権を得ることは出来なかった。その風穴を打ち破るべく果敢に東海新人出場を目指して欲しい。ブロック決勝で対戦が予想される浜松学院戦が

ひとつの正念場となるであろう。両チームの意地がぶつかる壮絶な試合になること必至である。

**駿河総合**はこの大会昨年、一昨年と2年連続準優勝。ウィンター県予選準決勝で常葉大常葉に激戦の末勝利、中部新人は準決勝で島田にやぶれ3位に終わったが、昨年も中部3位で県新人に出場し終わってみれば準優勝。その再現も十分ありうるであろう。チームの柱はアウトサイドシューター、小さな巨人・**鈴木美優**。ウィンター県予選・常葉大常葉戦では果敢に放つロングシュートが随所に決まり、3P5本を含む22得点、闘志あふれるプレーも見せ、数字以上に価値のある値千金の活躍をした。続く決勝の浜松開誠館戦でもチーム最多の18得点。中部新人・静岡西戦でも3P5本を含む37点を挙げ、チーム総得点の約7割を一人で稼ぎ出すという大車輪の働きを見せた。内外角の多彩なシュートレンジから相手をかかわしてバリエーション豊かに放たれるシュートはまさに天下一品。今年のチームを支える大黒柱である。インサイドには県内最高身長・177cm**加茂恵**が待ち構える。ウィンター県予選では残念ながら怪我のため出場機会がなかったが中部新人から戦線復帰、チームに心強い戦力が戻ってきた。長身を利してのリバウンドやゴール下はもちろん、ミドルシュートや積極的なディフェンスにも見るべきものがあり、万全な体調で挑む今大会での活躍が楽しみである。その他、ウィンター県予選決勝でも出場機会を得た**四竈恵子**や**小原嘉佳**など球際に強いプレイヤーも育ってきており、まずはブロック決勝で対戦が予想される東部覇者・市立沼津との戦いに勝利を収め、3年連続の東海新人出場、そして学校創立6年目にしての初優勝を狙う。

その他、各地区の上位チーム・**浜松聖星**、**浜松市立**、**浜松商業**、**静岡西**、**藤枝順心**、**加藤学園**、**飛龍**、**沼津商業**などが東海新人出場、そして優勝争いに加わる可能性は十分ある。各チーム上位進出を目指して頑張ってもらいたい。

上記以外の注目選手は**稲田凜**、**森山未愛**(沼津商業)、**石坂瑠海**、**益田空羽**(加藤学園)、**山田幸**(三島北)、**高橋呉波**、**阿部莉子**(飛龍)、**平松優希**(富士宮北)、**川村菜摘**、**森藤夏未**(東海大静岡翔洋)、**梶山来愛**、**岩野怜華**、**齋藤愛美**(静岡西)、**望月彩楓**、**望月玲奈**、**高橋香菜子**(藤枝順心)、**伊藤優希**、**山寄優衣**(静岡市立)、**望月麻美**(静岡商業)、**高林由佳**、**平野未佑**、**高林由佳**(浜松聖星)、**大久保涼**、**池田壘**、**小名木早希**(浜松市立)、**辻本茉衣華**(浜松商業)、**竹内彩萌**(浜松東)、**鈴木亜子**(西遠女子)などは是非ブロック決勝以上でその華麗なプレーを見てみたいと思わせる一流の選手たちである。

今大会女子で初出場のチームはないが、中部11位で県大会出場を決めた**静岡女子**は過去インハイ、ウィンター合わせて3回の全国出場経験を持つ、言わずと知れた強豪チームで今年度の県総体やウィンター県予選でもベスト16入りを果たした県上位常連のチームである。しかしながら新チームとして臨んだ中部選手権・中部新人ともに大苦戦し、大会最終日・11位決定戦で島田商業に勝利し32番目に県新人出場の最終切符をつかんだ。勝利の瞬間、喜びのあまり人目もはばからずに号泣する選手たちの姿は胸打つものがあった。初戦は第一シード・市立沼津。非常に厳しい戦い待ち受けるが強豪相手に一泡吹かせるつもりで渾身の力でぶつかって行って欲しいと思っている。